

1. 調査報告概要表

作成日 2007年8月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1070501166
法人名	社会福祉法人敬友会
事業所名	さくらの里グループホーム
所在地	群馬県太田市中根町295-1 (電話) 0276-32-1126

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年7月27日

【情報提供票より】(19 年 7 月 5 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	平屋 建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	230 円	昼食 320 円
	夕食	530 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	林外科医院 堀江病院 くらいわ内科医院 伊丹歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは居間の窓からの眺望がよく、目に入る田園風景に自然の移ろいを感じながら、時折通る電車を眺めては生活しているという実感を持つことの出来る環境の中に立地している。管理者・職員共に理念である「自由な生活」「個別性の尊重」をしっかりと認識、共有しており、入居者の思いに添った支援を常に心がけていることが訪問中の入居者の言動等から伺い知る事が出来た。同法人経営のデイサービスが隣接してあるので、ホームの浴槽では使用が難しい方の入浴をお願いしたり、外出の際に車や、人手の援助を依頼することが出来るなど利便性がある

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム便りの発行→前回の評価を受けて「グループホーム便り」の発行を始めており、現在は3ヶ月に1回の発行に取り組んでいる。</p> <p>居室について→一人ひとりに合わせた馴染みの空間作りが求められ、家族等にも話しかけ、努力はしているが、個別に応じた居室作りが実現していないので、更に家族等と相談しながら取り組むよう話し合っている。</p> <p>地域への働きかけ→地域推進会議等や自治会を通して努力している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果に基づき改善に向けて取り組んでいるが、クリアされていない項目が課題として残されている。今回の自己評価は管理者(一部代表者)が作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)</p> <p>これまでに2回推進会議を行っており、主にグループホームの説明と活動内容の紹介であった。今後は出来るだけ多くの方の参加を得、それぞれの立場の方の意見を聞きながら課題を見つけて、それを生かした取り組みを行っていく。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>来訪時に入居者の暮らしぶりの報告をしながら、家族との話し合いの機会を持っているので、何でも言えるような雰囲気作りが出来ており、家族の苦情・意見・要望は出来るだけ反映するように努力している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入しているが、地域活動には参加していない。法人としての行事の時には民生委員や地域の代表者等に呼びかけ地域との連携を深める努力をしている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間の尊厳」を大事にするとの考えを基本とし、代表者、管理者、職員の共通の認識のもとに、利用者の「自由な生活」「個別性の尊重」を重点とした事業所独自の理念をつくりあげている。	○	「地域の中でその人らしく生活することを支えるケア」を意識した理念についても、職員会議等で話し合い、既存の理念に加えていただくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有しており、1日3回の送りやミーティング等で確認しながら、日々の生活の場において理念を意識した対応に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人としては自治会に加入しているが、地元の行事等には参加していない。法人主催のお祭りには地域に声をかけており、老人会や民生委員の方も参加して下さっている。	○	法人代表が地元出身で知名度があることや、地域推進会議に老人会、民生委員の方が出席していることを踏まえて、ただ自治会に加入しているだけでなく積極的に地域の行事等に参加し、地域の一員になっていくことを期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘を受けた事項について、管理者は職員と共に具体的な改善に向けての話し合いを持ち、ホーム便りの発行や活動を触発するような働きかけ等、努力のあとが見られる。	○	評価のねらいや活用法について全職員が理解し、評価は管理者や一部の者のみが行なうのではなく、全職員で取り組む体制を作って欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに運営推進会議は2回開催、グループホームの意義や目的に付いて理解を得るための話し合いを行っている。現在のところ参加メンバーからの意見や要望等を聞くまでにはいたっていない。	○	運営推進会議は今後定期的に開催する計画で、出来るだけ多くの方の参加を呼びかけ、事業所からの外部評価の結果報告等と合わせて、参加メンバーからの意見、質問、要望を聞きながら、今後のサービス向上に生かして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設して2年目で歴史が浅く、今春管理者の交代等の事情もあり、積極的な市町村との連携は出来ていない。現在は運営推進会議時の交流だけである。	○	地域密着型サービスのためには市町村との連携が必要である事を全職員は認識して、市町村窓口に対して事業所の実情を伝えたりしながら、関係作りを積極的に行なうよう努力することが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的なホーム便りの発行や、家族の来訪時に日々の暮らしぶりや行事の様子、健康状態を知らせている。預かっているお小遣いの使途や残高も報告している		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と職員は気兼ねなく何でも話し合える関係が出来ており、意見や苦情等は直接伝えてくれることが多い。入居者のはいているズボンが皺になっているとか、庭に雑草が生えている等、職員に直接話をしてくれる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は極力さけ、止むを得ず交替をする場合は利用者にダメージを与えないように交替前後の説明をし、新しい職員への引継ぎを円滑に行なうよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には段階に応じた研修の機会を与え、職員会議等で研修報告を行なっている。すでに9月の研修の日程が決まっている方もいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設以来グループホーム連絡協議会には加入していないため他グループホームとの交流は無かったが、今年6月にグループホーム連絡協議会に加入したので、今後は同業者との交流を通してグループホームの質の向上に取り組むことを目指している。	○	地域の同業者とのネットワーク作りにより、他グループとの勉強会や相互交流が可能となり、職員の日頃の仕事の悩みの解消や緊急時の連携がスムーズになると思われるので、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	運営者はサービス利用前に本人、家族と会ってホームの説明をすると同時に本人の生活暦等を聞いて、無理なく馴染めるように配慮している。部屋の関係で可能な時はお試し利用をさせていただいている。過去にお試し利用により入居の無理な方が1人おられた。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を介護する対象として捉えるのではなく、人生の先輩として接しており、日常生活において教えられる事や、励まされたり助けられたりすることが多く、共に過ごし、学び、支えあう関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と向き合い、話を聞き、何を望んでいるのかを把握している。意思疎通の方には日頃の言動や家族からの情報により対応している。又本人と家族の意向に食い違いのある場合は可能な限り近づけるよう模索している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員でカンファレンスを行い、本人の希望や家族の意向を基に個別的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヵ月に1回の見直しとなっているが、変化が生じた時には本人、家族、関係者と話し合って随時見直しをしている	○	新たな変化や要望が見られない場合でも、月に1回程度は新鮮な目で本人や家族の意向や状況を確認することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態により専門医の受診が必要な時には、家族と相談の上通院支援をすることもある。又利用者の希望により菩提寺へのお墓参りなど柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決まっている方は4名で、基本的には家族が同行しているが家族の都合により職員が通院支援をしている。事業所の提携医院を利用している方には家族との連絡を蜜に取って適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての終末期のあり方についての検討はしていない。緊急時に際しての対応については入居時に家族との話し合いを持っている。	○	重度化や終末期のあり方について、本人・家族・かかりつけ医・ケア関係者・事業所等が共通の認識を持つ事が大切なので、早期に検討して統一の方針を持つことを期待する。終末期の対応が無理でも本人や家族が安心してサービスを受けられるように、急変時や重度化の場合の対応について、家族等と繰り返し話し合いをすることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を守り、さりげない言葉かけや対応しており、各人の性格に合わせた配慮をしている。個人情報を利用する場合は本人や家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、利用者本位を心がけ、その人らしく過ごせるよう希望に沿った支援をしている。訪問時に高校野球群馬県大会の決勝戦があり、入居者の希望でテレビのチャンネルが野球放送に換えられた。外出先についても利用者の希望によって決められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の利用者の状態により食事の下ごしらえやテーブル拭きを職員・利用者が一緒にしており、職員は利用者と同じテーブルで食事を摂りながら、さりげない介助をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、曜日や時間帯は決めているが、出来るだけ決まりにとらわれずに人員的に可能な限り希望を受け入れるようにしている。又入浴を拒否する方には無理強いすること無く足浴やシャワー浴を、失禁の時にはいつでも、というように柔軟な対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴・能力・趣味等を考慮し、料理の下ごしらえ・洗濯物たたみ・洗濯物干し・花の水遣りなど職員と一緒に取り組んでいる。ドライブの行き先等を利用者・職員と一緒に決めたり、近所のスーパーに職員と出掛け下着やお菓子を買ってくることもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や利用者の気分・希望に応じて、気分転換や季節を肌で感じてもらえるように、日常的に散歩・ドライブ・買い物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が抑圧された気分にならないように、職員の見守りにより、鍵をかけないケアに取り組んでいる。朝、職員が一人で居る時間帯に入居者の状況により、鍵をかけることがあるが常態化はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在の所、定期的な避難訓練や地域への働きかけは行っていないので、地域の協力体制も出来ていない。	○	災害はいつ起こるかかわからないことを踏まえて、地域住民・警察署・消防署などと連携をとりながら、定期的な避難訓練や具体的な支援体制の準備に取り組んで欲しい。自治会にお願いをしたり、地域推進会議の議題として取り上げ話し合うことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の接種状況を毎日チェックして記録に残しており、職員は情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール全体が明るく、ゆったりとしており、台所からは食事の準備の音や匂いが漂っており、生活感がある。又窓からの眺望はよく季節の移り変わりを実感することが出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真、カレンダー、時計などが見られるが、使い慣れた馴染の物の持込が乏しい。	○	家族や本人と話し合いながら、馴染の物を持ち込むだけでなく、その人らしく安心して過ごせる居室作りの工夫に取り組んで欲しい。